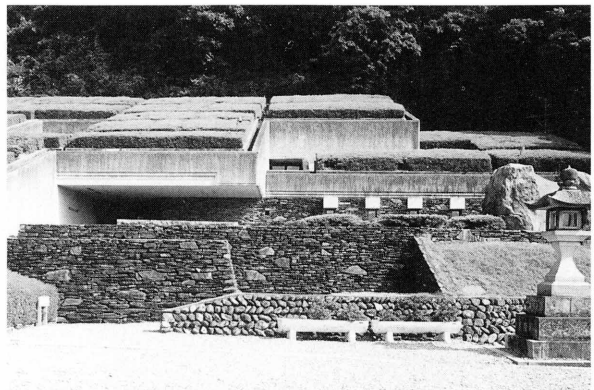


第10回 BELCA賞ロングライフ部門表彰物件

別子銅山記念館

所在地：愛媛県新居浜市角野新田町3丁目13番地
用途：博物館
竣工：1975年
所有者：住友グループ21社
設計者：株式会社 日建設計
施工者：住友建設株式会社
維持管理者：別子銅山記念館



わが国の近世から現代まで、二百八十年以上の歴史を持つ別子銅山はその地域だけでなく、わが国の近代史において、多面的な物語を持つ重要な産業であった。そして、その閉山と同時にその史跡をのこすためにこの記念博物館が建てられ、このたびこの建築が第10回 BELCA 賞ロングライフ部門の受賞に決まった。この建物は竣工後25年を経過していて、BELCA 賞の規定は十分満たしているとはいえ、銅山の歴史を振り返れば、更に長く生き長らえて、その使命を果たせる建築であって欲しい。現在は、この銅山を起源とする企業グループが、万全の体制で、管理運営にあたっているが、歴史博物館としての文化的施設として、今後より公共性を強めながら、長命な施設としての位置付けが重要となろう。

そのような観点からこの建物を見ると、環境との共生・簡素な建築素材の選択・鉱内の雰囲気伝える内部空間の構成などが設計のテーマとして設定されている。即ち、建物の形体は、銅山の守護神が祭られている大山積神社の境内から側面の山裾にそって植栽の施された屋根面が広がっている。本体を半ば地中に埋めながら周辺の地形との一体化をはかり、地中に広がる鉱山の玄関口が一部露出したようなデザインになっている。そして、使われている素材は、コンクリートのはつりと、鉱山の集落に使われていた石積み、勾配屋根のつつじの植栽、そして、開口部は厚みのある型鋼サッシュと、いかにも鉱区の一部が露出したような頑強な佇まいを見せる。内部は、床の高低に変化をつけながら、勾配屋根の効果を巧みに利用して、照明をおさえ、坑道の中を巡るような空間構成が、展示物のイメージと調和して、効果的に展開している。

この建築が、その所在のマイナス面を補うために、IT の技術を駆使し、同時に特別展示や、魅力ある企画によって、その使命を果たすことを期待したい。

維持保全の計画も長期にわたり計画され、計画時からの長寿命化の意図により、維持管理しやすい建築で、設備システムの更新も適切に行われている。地域に親しまれている屋上植栽にも見られるように、所有者、管理者の維持管理に対する熱意、愛情が感じられる。